

スペシャルオリンピックス スポーツルール 2011

第 章 - 総 則

スペシャルオリンピックスのトレーニングと競技会は、スペシャルオリンピックス公式スポーツルール(以下、スポーツルール)を規範として行われるものとする。この第 章では、競技固有のルールでは記載されていない、スペシャルオリンピックス公式ゼネラルルール(以下、ゼネラルルール)で定められている原則を記述している。よって、スポーツルールとゼネラルルールとで矛盾が生じた場合には、ゼネラルルールを適用するものとする。

スペシャルオリンピックスの使命、ゴールおよび設立理念は、ゼネラルルール第 1 条に記載されている。

セクション A スポーツルール

スペシャルオリンピックスのトレーニングおよび競技会は、すべて競技固有のルールに則って行われるものとする。なお、補足 A に記述の通り、スポーツルールは随時修正される。

1. 国際スポーツ連盟もしくは国内競技団体ルールの使用

- a. スペシャルオリンピックスの競技会は、各スポーツの国際スポーツ連盟(以下 IF)もしくは国内競技団体(以下 NGB)によって定められたルールによって運営されるものとする。なお、スポーツルールは必要に応じて IF もしくは NGB のルールを修正するものとする。IF もしくは NGB のルールとスペシャルオリンピックスの定めるスポーツルールに矛盾が生じた場合は、スポーツルールを適用するものとする。各国認定プログラムは、提供する各スポーツの参照基準となる競技団体のルールを提示しなければならない。
- b. スペシャルオリンピックスのリージョナルおよびワールドゲームでは、IF のルールが適用される。
- c. 本資料の補足 B は、スペシャルオリンピックスの各公式競技と準公式競技における IF を記載する。

2. 各競技ルールのセクション A にスペシャルオリンピックスにおける公式種目の一覧が記載されている。これらの種目は、あらゆる競技能力のアスリートに競技する機会を提供することを目的としている。各国プログラムは提供する種目、および必要に応じて、それら種目の運営方針を決定することができる。コーチは、それぞれのアスリートの技術と興味に応じて、適切なトレーニングの提供と種目を選択することに責任がある。

3. 身体障害があるスペシャルオリンピックスのアスリートへの日常トレーニングや競技会への参加機会を提供する際、スペシャルオリンピックスのプログラムは次の理念に基づいて行う。1)各アスリートが尊厳かつ有意義な競技経験を楽しむ。2)当該スポーツの全体性を維持する。3)全てのアスリート、コーチ、競技役員健康および安全が損なわれないようにする。

セクション B スペシャルオリンピックスへの参加条件

スペシャルオリンピックスのアスリートの参加条件は、ゼネラルルールのセクション 6.01 に詳述される(補足 C 参照)。

セクション C 行動規範

1. 行動規範

アスリートとコーチの行動規範は、スポーツルールの補足Dに記載されている。これらは最低基準であり、各国認定プログラムの理事会は追加基準を設定または定めることができる。

これらの規範に加え、全てのトレーニングおよび競技会において、敬意およびスポーツマンシップの精神をもって各国認定プログラムが参加することをスペシャルオリンピックスの方針としている。個人、チームあるいは選手団のいずれにおいても、スペシャルオリンピックスの競技会・大会、または活動に際して、参加している他のスペシャルオリンピックスのアスリートの仲間の宗教や政治的所属を理由に、自ら参加することを拒否した場合、当該ゲームやイベントへの参加資格を失い、そのイベントにおいては受賞または表彰の対象外となる。

2. スポーツマンらしからぬ行為

レフリーもしくは公式審判の指示に従わなかったもの、スポーツマンらしからぬマナーがあったもの、競技会において審判、観客、競技者に対して言葉や行動で攻撃的だったいかなる競技者も、レフリーにより、その後の競技会において部分的に失格とされることがある。

3. 最低限のトレーニング基準

基本理念

- a. スペシャルオリンピックスのアスリートは次のようなスポーツトレーニングを提供される権利がある。
 - 1) スポーツおよびスペシャルオリンピックスに精通しており、かつ知的発達障害のある人と効果的に稼働することができる有能なコーチによる指導。
 - 2) スポーツの技術および健康体力の増進。
 - 3) 競技会に向けた十分な準備。
- b. 基本理念のプロセスは次のように定義および活用される。
 - 1) 各国プログラム・地域は独自のトレーニング基準を設けなければならない。
 - 2) 競技会に参加する準備が出来るまでアスリートは決して競技会に出るはならない。それはアスリートが有意義かつ安全に競技をするために必要な技術と身体的水準を兼ね備えなければならないからである。これはアスリートへのトレーニングの一環として計画されている競技への参加機会を剥奪することではない。

セクション D スペシャルオリンピックス競技の区分

1. スペシャルオリンピックスの競技は、次の3つに区分される：

- a. 公式競技
- b. 準公式競技
- c. 地域で人気の高い競技

2. 競技の区分に関する提言については、スペシャルオリンピックスのプログラムから正式に認可を受けて成り立つものとする。いかなる競技も、IF または NGB による推薦のみでは考慮されない。

公式競技、準公式競技、ならびに地域で人気の高い競技の分類基準については、下記表を参照のこと。

公式競技	準公式競技	地域で人気の高い競技
SOI(国際本部)公認コーチングガイドがある		
SOI 公認スポーツマネジメントチームガイドがある		
少なくとも24の各国認定が、プログラムレベルの大会(ナショナルゲーム等)で実施している*	少なくとも12の各国認定プログラムが、プログラムレベルの大会(ナショナルゲーム等)で実施している*	
その24のプログラムは、最低3つのSOのリージョンを代表していなければならない	その12のプログラムは、最低2つのSOのリージョンを代表していなければならない	
SOI スポーツリソースチームが設置されている	SOI スポーツリソースチームが設置されている	プログラムの理事会がスポーツを承認している
国際スポーツ連盟が設置されており、スペシャルオリンピックスのために刊行されたルールを承認している	国際スポーツ連盟が設置されており、スペシャルオリンピックスのために刊行されたルールを承認している	国内競技団体が設置されており、スペシャルオリンピックスのために刊行されたルールを承認している
標準化されたルールが刊行されており、プログラムおよび世界大会にて一様に施行されている	標準化されたルールが刊行されており、プログラムにて一様に施行されている	標準化されたルールが刊行されており、プログラムにて一様に施行されている
SO 国際本部スポーツ部門が健康および安全面のリスクアセスメントを実施している	SO 国際本部スポーツ部門が健康および安全面のリスクアセスメントを実施している	認可されたSOのプログラムが健康および安全面のリスクアセスメントを実施している

* = PDS 年次報告書による

3. 2011年度公式競技

夏季公式競技(全21競技)

水泳競技、陸上競技、体操競技、バスケットボール、バドミントン、ボッチャ、ボウリング、自転車競技、馬術、フットボール(サッカー)、ゴルフ、ハンドボール、柔道、新体操、パワーリフティング、ローラースケート、セーリング、ソフトボール、卓球、テニス、バレーボール

冬季公式競技(全7競技)

アルペンスキー、クロスカントリースキー、フィギュアスケート、フロアホッケー、スノーボード、スノーシューイング、ショートトラックスピードスケート

4. 2011年度準公式競技

夏季準公式競技(全3競技)

クリケット、カヤック、ネットボール

冬季準公式競技(1競技)

フロアボール

5. 地域で人気の高い競技

各国認定プログラムは、現時点で公式または準公式競技ではないが、プログラムの行われている地域で人気のある競技を提供することができる。

5.

6. スペシャルオリンピックス本部の事前承認が必要な“地域で人気の高い競技”

事前承認が必要な競技とは、スペシャルオリンピックスのアスリート達が、健康や安全面で不当なリスクにさらされる危険性がある、とSOIが判断している競技である。各国認定プログラムは、SOIスポーツ部門の許可なしに、ここにSOIが記載している競技について、いかなるトレーニングまたは競技活動も提供してはならない。これらの競技を提供するために承認を要求する場合は、ルールおよび安全基準に関する提案を伴っていなければならない。SOIは、現在、格闘技、武術（柔道は除く）、そりを使用するスポーツ、モータースポーツ、空中スポーツ、射撃、およびアーチェリーを、スペシャルオリンピックス本部の事前承認が必要な“地域で人気の高い競技”としている。

7. スポーツ認証基準の整備

- a. 各競技および分類については4年ごとに再検証され、上記の基準に基づいて分類される。夏季スポーツは、2007年より各夏季世界大会終了後に再認定され、冬季スポーツは、2009年より各冬季世界大会終了後に再認定される。
- b. SOIスポーツ部門は、すべての競技の認証基準を立証するための証拠の提出に責任を負うものとする。
- c. 認定更新の推薦は、スポーツルール諮問委員会に上げられる。

8. 公式あるいは準公式競技の種目の追加/削除

公式および準公式競技の種目の改訂の提案は、スポーツルールの変更プロセスにおいて提出される(補足A参照)。

セクション E 大会または競技会の開催頻度(招待大会など)

1. 各国認定プログラムは、ゼネラルルールのセクション 7.03.c “トレーニングと競技会の一般規定”に概略が述べられているように、定期的な競技会の機会を提供しなければならない(補足E参照)。
2. スポーツトレーニングや競技会運営の基準については、ゼネラルルール第7条に述べられている。

セクション F 医療および安全面の必要条件

1. 各国認定プログラムおよび大会組織委員会(GOC)は、アスリート、コーチ、ボランティア、および観客の健康と安全を守るための適切な措置を全て講じることで、全てのトレーニングや競技会活動を安全な環境で実施しなければならない。また、競技固有のルールに記載されている競技特有の医療面ならびに安全面の要件を満たさなければならない。

2. 各国認定プログラムは全てのアスリートに適切な指示およびコーチングを行うものとする。競技会活動においては、最高4人のアスリートに対してコーチ/付き添い1人をつけるものとする(アスリートとコーチの比率は4:1)。
3. コーチは全てのアスリートの健康と安全を最優先に考えなければならない。これはスペシャルオリンピックスのスポーツチームに参加するアスリートを適切に選出するためには、特に重要となるポイントである。
他のチームメンバーより極めて技術が優れている個人については、競技に参加することで他のメンバーに危険を及ぼす可能性があるという理由で、スペシャルオリンピックスのチーム競技への参加が禁止される場合がある。
4. 4. 各国認定プログラムおよびGOCは、競技会会場の医療設備と安全対策について、SOスポーツルールの競技別要件の他に、次の最低要件を守らなければならない。
 - a. 競技会における最低限の医療設備
 - 1) 資格のある救急医療士が待機しているか、あるいは常時対応することができる。
 - 2) 資格のある医療専門家が競技中に常時待機しているか、あるいは緊急呼び出しに常時対応できる。
 - 3) 期間中、すべての救急エリアはわかりやすく表示され、必要な設備を備え、そして資格のある救急医療士が配置されている。
 - 4) 救急車、酸素吸入器、その他の適切な医療装置、特に発作に対応するための設備を常時利用することができる。
 - b. 競技会における最低限の安全対策
 - 1) アスリートが悪天候による日焼けや低体温症、またはその他の疾病にかからないように十分な予防策をとる。
 - 2) 高地で競技会を開催する場合、競技会の前にトレーニングに関するアドバイスをアスリートに提供し、競技会場に酸素タンクを十分に装備するなど、特別な対策をとる。
 - 3) 競技会中、アスリートには水やその他の飲料を十分に提供し、適切な水分補給を促す。
 - 4) 各参加者が、各自に処方された全ての薬を確実に受け取ることができるよう、特別な予防策をとる。
 - 5) 競技スケジュールを作成する際、競技会の主催者、審判ならびにコーチは、競技会/大会期間の長さ、気象条件、参加者の身体的能力および適切な休憩時間の必要性を考え、心血管系への影響および競技の激しさのレベル(負担の度合い)を考慮する。一般に、アスリートには予選、決勝、および競技の合間に十分な時間が与えられ、チームの場合は、競技終了後から次の競技までの間に、十分な時間が与えられなければならない。
 - 6) 防具の必要性については、必要に応じて競技のスポーツルールに記載されている。

5. 環軸椎不安定(亜脱臼)性のダウン症アスリートの参加については、補足 F を参照のこと。
6. 各国認定プログラムは、アスリートの登録条件に関して、スペシャルオリンピックスゼネラルルールのセクション 6.02(補足 F 内)を遵守しなければならない。これは、ダウン症のアスリートとそのファミリーのための参加要項、ならびにスペシャルオリンピックスの活動に参加するにあたって事前に提出する医療関連書類を含む。

セクション G ルール委員会

1. 競技運営にあたって責任のある各国認定プログラムは、その競技会で実施される各競技のスポーツルール委員会(ジューリー)と大会ルール委員会(上訴審査会)を任命しなければならない。
2. ヘッドコーチ(ヘッドコーチが不在の場合はヘッドコーチが指名した人)は、大会責任者によって設定された手順に基づき抗議、上告を申請することができる。
3. スポーツルール委員会は、当該競技において、IF、NGB、およびスペシャルオリンピックスのスポーツルールが遵守され、かつ施行されるよう確認し、申請のあった全ての抗議について判断を下さなければならない。
 - a. スポーツルール委員会は、IF あるいは NGB より設定された該当競技の手順に基づいて設置される。
 - b. もしそのような手順が設定されていない場合は、スポーツルール委員会は次の3人のメンバーで構成される：大会を主催している各国認定プログラムから1名、GOC から1名、ならびに当該競技の審判長1名。
4. 大会ルール委員会はスポーツルールが全般的に遵守されていることを確認し、また、各競技のスポーツルール委員会より提出された抗議を審問する。大会ルール委員会は、大会中のルールに関する全ての解釈と抗議に対して、最終的な決定を下す機関となる。
 - a. 大会ルール委員会は3人のメンバーで構成される：大会を主催している各国認定プログラムから1名、GOC から1名、ならびに全参加者(参加地区組織)を代表する者が1名。
 - b. さらに委員代理1名が大会ルール委員会に任命される。参加地区組織を代表する委員が所属するチームや選手団のメンバーについて大会ルール委員会が検討しなければならないとき、委員代理が参加地区組織を代表する者の任務を代行する。委員代理は大会ルール委員会の全会合に出席することができ、全討議に参加する権利を持つが、前述の場合を除いて投票することはできない。

セクション H 競技会参加の年齢条件とグループ分け

1. スペシャルオリンピックスの競技会に出場するアスリートは8歳以上でなければならない。競技やイベントによっては、さらに年齢によってアスリートの参加を制限する場合もある。該当する競技については、年齢条件が競技固有のルールに追記されている。
2. すべてのスペシャルオリンピックス競技会において、通常次の年齢グループを適用する。

a. 個人競技:

- 8歳 - 11歳
- 12歳 - 15歳
- 16歳 - 21歳
- 22歳 - 29歳
- 30歳以上

30歳以上のグループに該当する人数が相当数いる場合は、年齢グループを追加することができる。

b. チーム競技:

- 15歳以下
- 16歳 - 21歳
- 22歳以上

22歳以上のグループに該当するチーム数が相当数ある場合は、年齢グループを追加することができる。チームの年齢グループは、競技会開会日におけるチーム最年長のアスリートの年齢によって決定される。

3. 年齢グループは次の状況において統合することができる:

- a. 個人競技において、1つの年齢グループの出場者が3人に満たなかった場合、アスリートたちは1つ上の年齢グループに入って出場する。その場合、その年齢グループの名称は、出場者全体の年齢の範囲を正確に反映したものに変更する。また、ディビジョン内の最高記録と最低記録の差を抑えるために、年齢グループを統合することもある。
- b. チーム競技において、各能力グループ内で異なる年齢グループと対戦する場合がある。同年齢グループ、あるいは同能力グループ内でチームが1つしかない場合、そのチームは異なる年齢あるいは能力のグループと対戦しなければならない。

4. アスリートの年齢グループは、競技会開会日のアスリートの年齢によって決定される。

セクションI スペシャルオリンピックスのディビジョニング

競技会において、アスリートのディビジョニングを公平に期することは、大会責任者の最も重要な役目の1つである。以下の基準によって、スペシャルオリンピックス競技会におけるスペシャルオリンピックスアスリートのディビジョンは決定される。各アスリートに対して最も威厳のある、そしてやりがいのある競技会経験を提供するという目的に基づき、大会責任者は基準に対する変更案について協議し、これらの基準に対して例外を認めるかどうか、最終的な判断を下す。また、大会責任者はディビジョンおよびそれらの基準に対する変更について、最終的な決定権限を持つ。なお、ディビジョニングに関する抗議は一切認められない。

1. ディビジョニングの手引き

スペシャルオリンピックスは、いかなるディビジョンにおいても最高得点と最低得点の差が10%を超えないよう、ガイドラインとして推奨する。ただし、この10%については規則ではない。

2. ディビジョニングにおける競技能力ならびに決定基準

- a. アスリートの能力は、スペシャルオリンピックス競技会においてディビジョニングを行う際の

主な要素となる。アスリートやチームの能力は、エントリー時に提出する事前の競技会の成績、もしくは出場する競技会におけるシード戦または予選の結果に基づいて判断される。そのため、チームのヘッドコーチは、ディビジョニングに活用されるアスリートの成績が、アスリートの真の競技能力を最も正確に反映するものか確認する責任がある。ディビジョニングの過程で活用される予選の成績をコーチが修正できるよう、フォームを準備しておく必要がある。なお、競合性のあるディビジョニングを設定するために重要となる他の要因として、年齢と性別がある。

注:これらのルールに記載されている「予選」とは、現地で最終ディビジョンを決定するために行われるディビジョニングのことを指す。

- b. 各ディビジョン内における最低人数/チーム数は3、最高人数/チーム数は8とする。しかしながら、競技会におけるアスリート数やチームの参加数がこれに達しない場合がある。以下の手順は、公平なディビジョニングを行うための一連のプロセスであり、また理想的なディビジョニングを阻害する要因がある場合に、アスリートの参加を可能にするための指針を提供するものである。

3. 個人競技のディビジョニング：計時、および計測種目

a. ステップ 1: アスリートを性別で分ける

- 1) アスリートを性別によって2つのグループに分ける：女性、男性。
- 2) アスリートは通常同性のアスリート同士で対戦する。ただし、国際または国内(IF/NGB)ルールが特に男女混成種目を認めている場合はこの限りでない(例：馬術、フィギュアスケートのペア種目、ボウリング、卓球、アイスダンス、テニスなど)。

b. ステップ 2: アスリートを年齢別に分ける

- 1) 男性アスリートと女性アスリートを次の年齢グループに分ける：8歳～11歳、12歳～15歳、16歳～21歳、22歳～29歳、および30歳以上。30歳以上のグループに参加者が相当数いる場合は、年齢グループを追加することができる。
- 2) アスリートの年齢グループは、競技会開会日の年齢によって決定される。

c. ステップ 3: アスリートを能力別に分ける

- 1) ディビジョニングのプロセスを完了させるために、ディビジョニングする種目によって以下の指針を適用する。
 - a) タイム、距離、得点で計測される種目：
 - ・提出されたエントリー記録または予選記録に基づき、性別および全ての年齢グループにおいて、アスリートの順位を降順に決める。
 - ・順位を付けたこれらのアスリートたちの最高記録と最低記録の差が、可能な限り10%の指針に近付くよう(差を10%以下におさめる)、また出場者数が3人未満、あるいは8人を超えることのないようにグループ分けをする。
 - b) 判定がある競技で、競技会中に予選が行われる場合：
 - ・1つの演技レベル内の性別および全ての年齢グループにおいて、予選記録に基づき、アスリートの順位を降順に決める。
 - ・順位を付けたこれらのアスリートたちの最高記録と最低記録の差が、10%の指

針に近付くよう(差を10%以下におさめる)、また出場者数が3人未満、あるいは8人を超えることのないようにグループ分けをする。

- c) 判定がある競技で、競技会中に予選が行われない場合：
 ・審査の性質上、ディビジョニングにおいては事前の競技会の記録は考慮しない。予選の記録がないため、演技のレベルのみがアスリートの能力を判断する基準となる。
 ・性別および全ての年齢グループにおいて、各演技レベル内でアスリートを分類する。
 ・同程度の演技レベルで同一の性別・年齢グループに入るアスリートが8人を超える場合は、3人以上8人以下のディビジョンに分ける。

4. チーム競技のディビジョニング

- a. ステップ1: チームを性別で分ける
 チームを性別によって2つのグループに分ける。女性チームは女性チームと、男性チームは男性チームと対戦する。混成チームについては、同等の能力の混成チームによる別のディビジョンを作るための相当チーム数がない場合は、男性チームと同じディビジョンとなる。
- b. ステップ2: チームを年齢別に分ける
 1) 男性チームと女性チームは、次の年齢グループに分ける: 15歳以下、16歳～21歳、22歳以上。22歳以上のグループチーム数が相当数ある場合は、グループを追加することができる。
 2) チームは同じ年齢グループのチームと対戦する。
 3) チームの年齢グループは、競技会開会日におけるそのチームの最年長のアスリートの年齢によって決定される。
- c. ステップ3: チームを能力別に分ける
 1) スペシャルオリンピックスのすべてのチーム競技では、出場チームの能力レベルを評価するために、当該競技の技能アセスメントと予選結果を活用する。
 チーム競技における技能アセスメントの詳細については、各競技のスペシャルオリンピックスのスポーツルール参照すること。また、ディビジョニングのためのチーム競技アセスメントに関する追加情報については、スペシャルオリンピックススポーツマネジメントチームガイドを参照すること。
 2) チームを技能アセスメントに基づく能力と予選結果に基づいてグループ分けする。
 3) 各能力グループ内で年齢グループを適用し、各ディビジョンのチーム数が3チーム以上8チーム以下となるようにする。

5. ディビジョニングの課題の解決

- a. 上記の手順を踏んでも各ディビジョンが3人未満、または3チーム未満になる場合がある。その場合は次の方法を用いる：
 1) 年齢別グループの修正：
 アスリートが3人以上、あるいは3チーム以上の公正なディビジョンに分けるためには、年齢別グループの年齢幅を広げても良い。その場合、アスリートの年齢幅を正確に反映した名称のディビジョンに変更すること。ただし、IF/NGBのルールにより、異なる年齢のアスリート(例: 子供と大人)同士が競技することを禁止している場合は、それに準じなければならない。

上記手順を踏んでも各ディビジョンが3人未満、または3チーム未満の場合は次のように対応する：

- 2) 競技能力幅の修正：
10%の指針を超えて競技能力幅を広げることができる。
上記手順を踏んでも各ディビジョンが3人未満、または3チーム未満の場合は次のように対応する：
- 3) アスリートの健康や安全に危険が生じないのであれば、異性のアスリート同士を組み合わせる。

b. 上記のガイドラインで許された範囲内で年齢グループや競技能力幅を修正しても、ディビジョンが3人未満、または3チーム未満になった場合に限り、その規定数に満たない最終ディビジョンは認められる。

c. 各アスリートに対して最も威厳のある、そしてやりがいのある競技会経験を提供するという目的に基づき、大会責任者は基準に対する変更案について協議し、これらの基準に対して例外を認めるかどうか、最終的な判断を下す。また、大会責任者はディビジョンおよびそれらの基準に対する変更について、最終的な決定権限を持つ。なお、ディビジョニングに関する抗議は一切認められない。

6. 代替戦

競技会における複数種目のディビジョニングを行うために、1回の予選や1回の指定の決勝戦を、代替戦として用いる場合がある。

例えば、アルペンスキーの場合、ジャイアントスラロームをスラロームやジャイアントスラローム、スーパージャイアントスラロームの結果を決勝戦のディビジョニングを行うための代替戦として用いる。代替戦をディビジョニングに使用する場合、いずれかの最終レースのアスリートの結果を、その後の決勝ディビジョニングに用いる。

例えば、ジャイアントスラロームの代替戦を3種目(ジャイアントスラローム、スラローム、スーパージャイアントスラローム)のディビジョニングに用いると、最初の種目(ジャイアントスラローム)の開始後、アスリートを上位もしくは下位のディビジョンに移す必要が明確になるので、競技責任者はスラロームやスーパージャイアントスラロームの決勝におけるアスリートのディビジョンを移動することがある。

7. アスリートが予選で失格となった場合、その競技に安全に参加でき、またディビジョニングの責任者である大会責任者に、競技能力が明確に反映されているスコアを提供することができるならば、決勝に進出することが認められる。スポーツマンシップに反して失格となった場合は、決勝に進出することが認められない。

8. オネストエフォートルール

大会責任者が予選やディビジョニングラウンドにおいて、アスリートやチームがディビジョニングの過程で明らかに不当な利益を得ようとして最大限の力でプレーをしなかったと判断した場合に、そのアスリートやチームに制裁を加えることができる。制裁内容は以下のものを含む：“スポーツマンらしくない行為”について、プレーヤーやコーチへの口頭での警告、ディビジョンおよび最終順位の訂正、もしくは失格処分。

セクションJ 表彰

1. 表彰品授与規定

ナショナルゲーム、リージョナル大会、世界大会、またその他のいかなる競技会や大会におい

て、各種目の1位から3位までの入賞者にメダルを授与し、また4位から8位までの入賞者にリボンを授与する。

失格になったアスリート(スポーツマンらしくない行動以外の理由による)や途中棄権者には参加賞のリボンを授与する。

2. 同点・同着

同点・同着の場合、同じ結果を持つ各アスリートやチームは上位の同一順位とする(例: 2人のアスリートが同時に第3位となった場合、両アスリートとも銅メダルを獲得する)。その次に続くアスリートやチームは、成績の順位に該当する賞を授与される。(例: 4着でゴールインしたアスリートには、先行してゴールしたアスリートたちが同着であるなしに関わらず、4着のリボンを授与する。つまり、ある順位で同点・同着が生じた場合、例えば1位が同点・同着であれば2位の該当者はなし、となるように、次に続く順位の表彰該当者はいないことになる。)

3. 特別表彰

メダルやリボンとは別に、アスリートが著しい成果を成しとげたと認められた場合、公式の表彰式後に特別に表彰される場合がある。(例: 平均を上回ったボウリングの最高点、最も向上したアスリート、自己最高記録、スポーツマンシップなど。) なお、公式メダルやリボンは競技結果に基づいてアスリートに授与されるものであり、贈り物や感謝の印としてスポンサーやゲスト、コーチなどに進呈されるものではない。

4. 記念品

競技会に参加するすべてのアスリートに、参加した証として記念品が授与されることがある。しかし、これらの記念品は正式な競技会への表彰品と同等のものであってはならない。

5. チーム競技

- a. スペシャルオリンピックスのあらゆる競技会において、チームに対し団体トロフィーを授与することができる。チーム内のアスリート個人は、単独競技の競技会においてのみトロフィーを受け取ることができるが、メダルあるいはリボンはどのスペシャルオリンピックスの競技会においても受け取ることができる。
- b. ある種目に男性チーム、または女性チームが1チームしかおらず、異性チームのディビジョンに分けられていた場合、このチームはその成果に対して第1位の表彰を受けることもできる。
- c. スポーツマンらしくない行動のために競技会全体から出場資格を剥奪されたチームまたはチームの個人メンバーには、いかなる賞も授与されない。(これには、競技会の1つの試合で退場となっても次の試合やチームプレーに復帰を許されているアスリートは含まない。)

表彰式は「競技会マネジメントガイド」に則って行われる。

セクション K 上位レベルの競技会への進出条件

1. 基本原則

どの競技能力のアスリートも、参加する競技と種目で次の上位レベルでの競技会が提供されている場合、その競技会へ進出する機会が等しく与えられている。

2. 進出条件

- a. アスリートが次の上位レベルの競技会へ進出する資格を得るのは、以下の条件を満たした

場合である。

- 1) 次の例外を除き、先に行われる前段階となる競技会に参加している必要がある。
(例: アスリートはナショナルゲームに出場してからでないと世界大会へ進むことができない。)
 - 2) 競技会や大会に出場する機会が全くなかったアスリートまたはチームは、次のレベルの競技会に出場する資格がある。
- b. トレーニングや競技会で参加するスポーツは、アスリートが次の上位レベルの大会で参加予定のスポーツと同じものでなければならない。次の上位レベルの大会で、競技内において別の種目への参加も可能となっている場合、アスリートは適切なトレーニングを受けなければならない。
3. アスリートとチームの選出手順
- a. プログラムは経過と基準について予め、公表しなければならない。
 - b. 各国認定プログラムは GOC と共に、当該競技会への参加が認められるアスリートの人数やチーム数を競技や種目ごとに決定する。これが割り当てられるクォータ(参加枠)である。
 - c. 各国認定プログラムは下位レベルの競技会における参加数をもとに、各競技種目において進出するアスリートやチームの数を割り出す。
 - d. 進出条件を満たすアスリートやチームの数がクォータを超えない場合、すべてのアスリートとチームが進出する。
 - e. 進出条件を満たすアスリートやチームの数がクォータを超えた場合、進出するアスリートやチームは以下のように選出される:
 - 1) 競技や種目の全てのディビジョンにおいて1位が最優先される。1位入賞者数がクォータを超える場合、進出するアスリートやチームは無作為抽選によって選出する。
 - 2) 1位入賞者数がクォータに満たない場合、すべての1位入賞者が進出する。クォータの残りについては、その競技や種目の全てのディビジョンにおいて2位に入賞したもののの中から無作為抽選によって選出する。
 - 3) 全ての1位、2位入賞者が進出してもクォータが満たない場合、クォータの残りについては、その競技や種目の全てのディビジョンにおいて3位に入賞したもののの中から無作為抽選によって選出する。
 - 4) この手順を繰り返し、各順位の入賞者をクォータが満たされるまで必要なだけ追加する。
 - f. 以上の手順は個人競技およびチーム競技の両方に適用する。
4. 遵守
- a. アスリートが上位レベルの競技会へ進出するための基準は、スペシャルオリンピックスの活動において不可欠な要素である。基準を満たすことができない特別な状況の場合は、代替の選出方法が進出に関する基本原則と矛盾しない場合に限り、既存の手順とは異なる措置を申請することができる。
 - b. 各国認定プログラムは、行動面、医療面、または司法面(公平性)を考慮した上で、進出に関する追加の基準や、またこれらの進出手順から外れることについて、プログラムの規模あるいは性質に応じて承認を申請することができる。

c. 既成の手順と異なる申請を提出するときは、次の項目に従い文書にて提出しなければならない。

- 1) 国際大会やリージョナル大会、および世界大会への進出については、SOIの世界大会部門がすべての申請に対して判断し、受理/却下を決定する。
- 2) ナショナルゲーム、もしくはそれ以下の国内競技会への進出については、各国認定プログラムがすべての申請に対して判断し、受理/却下を決める。SOIには、承認された例外措置を再検討する権利がある。

d. コーチの進出については、各国認定プログラムはスペシャルオリンピックスのアスリートの競技経験を増やすため、資格や技術的な経験、および実務経験に基づいたコーチの進出基準を策定することが推奨される。SOIには、承認された例外措置を再検討する権利がある。

セクション L ユニファイドスポーツ®

1. スペシャルオリンピックスユニファイドスポーツ®は、スペシャルオリンピックスのアスリートと知的発達障害のないアスリート(以下パートナー)が、トレーニングや競技会のスポーツチームとともに参加するプログラムである。アスリートとパートナーの年齢や能力レベルの組み合わせ、およびアスリートとパートナーの人数の割合については各競技によって定義されている。スペシャルオリンピックスユニファイドスポーツ®のパートナーは知的発達障害のない人とする。
2. 健康と安全
 - a. コーチは全てのアスリートの健康と安全を最優先に考えなければならない。これは、スペシャルオリンピックスユニファイドスポーツ®チームに参加するアスリートとパートナーを適切に選出するために、特に重要となる。
 - b. チームの他のチームメンバーよりも極めて技術レベルが高く、参加することによって他の参加者への危険が生じる恐れのある個人は、スペシャルオリンピックスユニファイドスポーツ®への参加を禁じられることがある。
3. ユニファイドスポーツ®の考え方と方針
 - a. アスリートおよびパートナーが同程度の競技能力レベルと年齢の場合、スペシャルオリンピックスユニファイドスポーツ®による効果が高められる。チームメート全員ができるだけ等しい競技能力と年齢の組み合わせになるよう、最大限の努力を行わなければならない。その結果、彼ら自身と他の人たちが負傷する危険性が減り、より意義のあるスポーツ体験が可能となる。
 - b. スペシャルオリンピックスユニファイドスポーツ®チームのメンバーは、競技の際にそのスポーツの基本的な技術と戦略について実際に示すことができなければならない。
 - c. 競技会におけるスペシャルオリンピックスユニファイドスポーツ®アスリートとパートナーの人数は別途規則で定められているが、全体の名簿上でアスリートとパートナーの数が比例するよう(50/50に可能な限り近づくよう)推奨している。そうすることにより、必要とされるラインナップの割合を満たすことができずに試合を棄権する可能性が低くなり、またトレーニングと競技会の両方においてユニファイドスポーツ®の経験の効果がより高まることになる。

4. 競技会の実施

- a. すべてのスペシャルオリンピックスの規則や規定は、次の例外を除きアスリートとパートナーに等しく適用される：パートナーは本人の病歴、法的責任の放棄、ボランティアとしての適性審査、ならびに経歴が含まれる「ユニファイドスポーツ®パートナー申請書」に記入する義務がある。
- b. 競技会はスポーツルールに従って運営される。競技におけるアスリートとパートナーの人数など、ユニファイドスポーツ®特有の規則については、各競技のスポーツルールに定められている。
- c. オフィシャルは、特定のプレーヤーが不当な優位性を得るためにプレーを支配していると判断した場合、そのプレーヤーを罰することができる。制裁内容としては次のものがある：プレーヤーおよび/またはコーチへの警告、スポーツマンらしくない行動をしたプレーヤーの召還、または試合からの退場。
- d. スペシャルオリンピックスユニファイドスポーツ®チームは、スペシャルオリンピックスのディビジョニングの手順に従い、年齢や競技能力に基づいて、他のユニファイドスポーツ®チームとともに競合できるディビジョンに分けられる。
- e. 公式のスペシャルオリンピックスユニファイドスポーツ®の表彰またはスペシャルオリンピックスの表彰は、スペシャルオリンピックスの表彰の手順に従い、アスリートおよびパートナーの双方に授与される。
- f. いくつかの競技において、アスリート全員が意義のある参加ができるよう、変更が加えられている。

スペシャルオリンピックス ユニファイドスポーツ®
競技パラメーター

		近似年齢	近似能力	競技フィールド内で同時に プレーできる ユニファイドスポーツ® アスリート - パートナーの割合	
		R = 義務 P = 奨励	R = 義務 P = 奨励	アスリートの 人数	パートナーの 人数
チーム競技					
バスケットボール	チーム競技	R	R	3	2
クリケット	チーム競技	R	R	6	5
サッカー	5人制	R	R	3	2
サッカー	7人制	R	R	4	3
サッカー	11人制	R	R	6	5
ネットボール	チーム競技	R	R	3	2
ソフトボール	チーム競技	R	R	5	5
チームハンドボール	チーム競技	R	R	4	3
バレーボール	チーム競技	R	R	3	3
フロアホッケー	チーム競技	R	R	3	3
個人競技					
水泳競技	リレー	R	R	2	2
陸上競技	リレー	R	R	2	2
バドミントン	ダブルス/ ミックスダブルス	P	R	1	1
ボッチャ	ダブルス	P	P	1	1
ボッチャ	チーム	P	P	2	2
ボウリング	ダブルス/ ミックスダブルス	P	P	1	1
ボウリング	チーム	P	P	2	2
サイクリング	タンデムタイムトライアル	P	P	1	1
ゴルフ	チームプレー	P	P	1	1
カヤック	K-2 ダブルス	P	R	1	1
ローラースケート	ペア/ダンス チーム	P	P	1	1
セーリング	2クルー	P	P	1	1
セーリング	3クルー	P	P	2	1
卓球	ダブルス/ ミックスダブルス	P	R	1	1
テニス	ダブルス/ ミックスダブルス	P	R	1	1
クロスカントリースキー	リレー	R	R	2	2
フィギュアスケート	ペア	P	R	1	1
フィギュアスケート	アイスダンス	P	R	1	1
スノーシューイング	リレー	R	R	2	2
ショートトラック	リレー	R	R	2	2

ユニファイドスポーツ®競技の実施に関する追加情報や詳細については、スペシャルオリンピックスの各スポーツルールを参照する。

5. ユニファイドスポーツ®種目を含まない個人競技:

- a. 体操競技
- b. 柔道
- c. パワーリフティング
- d. アルペンスキー
- e. スノーボード

セクション M モーターアクティビティーズトレーニングプログラム(MATP)

スペシャルオリンピックスのモーターアクティビティーズトレーニングプログラム(MATP)は、スペシャルオリンピックス公式競技に参加するために必要となる身体的、そして/または行動的スキルをまだ有していない、最も身体面での補助が必要な人たちのために考案されている。

プログラムは、これらの参加者に総合的な運動機能活動やレクリエーショントレーニングのカリキュラムを提供する。MATP は、競うことよりもトレーニングすることや、参加することを重視する。さらに、プログラムはアスリートの能力レベルに応じた適切なレクリエーション活動を行う手段をアスリートに提供する。

MATP はこれらの人々を対象とするために、各々の領域で資格を持った専門家の指示によってのみ行うことができる。活動はスペシャルオリンピックス事務局にある MATP コーチングガイドに従って行われなくてはならない。

補足 A - スポーツルール諮問委員会(SRAC)

1. 補足 A.1 - スポーツルール諮問委員会

a. 目的

SRAC の趣旨は、スポーツルールの継続的な見直しを行い、諮問委員会と/あるいは、各国認定プログラムによって提案されたスポーツルールの修正条項案を SOI へ提言することである。

b. 組織

SRAC は、スポーツ専門家、コーチ、ファミリー、アスリート、オフィシャル、各国認定プログラムのエグゼクティブ/ナショナルディレクター、あるいは SOI の理事によって構成される。諮問委員は、世界中の各国認定プログラムから選任されるものとし、可能な限り实际的で、地理的にも多様で国際的な対象範囲から選ばれるものとする。スポーツルール諮問委員会の規模は、SOI の理事会によって決定される。

c. 任命および任期

SOI は、スポーツルール諮問委員会の全メンバーを任命するものとする。これらの任命は、SOI の最高経営責任者(CEO)あるいは CEO によって指名された人によってなされるものとする。この任命を行う際に、SOI は各国認定プログラム、あるいはスペシャルオリンピックスに参加している、もしくは関連している人々からの推薦を考慮することもある。各スポーツルール諮問委員の任期は 4 年とし、何らかの事情により 4 年の任期を継続できない、あるいは希望しない委員が出た場合には、SOI の CEO が、代わりの諮問委員を任命する。

d. スタッフ

SOI のスポーツ部門は、スポーツルール諮問委員会およびその小委員会にスタッフ面での支援を提供する責任がある。

e. 議長および副議長

諮問委員会の議長と副議長は同時期に務めるものとし、2 年毎に選出される。また、スポーツルール諮問委員会の議長は、スポーツルールに関係する提案をすべて受け取り、それらの提案に対して諮問委員会が対応しなければならない全ての措置を開始させる責任がある。加えて、議長は諮問委員会の年次報告書を作成しなければならない。

2. 補足 A.2 - スポーツリソースチーム (SRTs)

- a. スポーツルール諮問委員会は、各公式競技と準公式競技のルールの見直しについて、SRTs を活用すること。
- b. 各 SRT は、提言内容をスポーツルール諮問委員会に報告しなければならない。
- c. SRT の特定競技における主な役割は下記の通り：

- 1) 全てのルール変更案について検討する。
 - 2) SRAC に対し、ルール変更案に関するアドバイスや指針を提供する。
 - 3) スペシャルオリンピックスとIF ルールの理解を得る。
 - 4) 競技別の資料が策定される段階で、スポーツルールが正確に反映されているか確認する。
 - 5) 他の SRT メンバーと協力して SRAC への提言を策定する。
 - 6) スペシャルオリンピックスの基本理念が、全てのスポーツルールにおいて維持されるよう留意し、保証する。
3. 補足 A.3 - スペシャルオリンピックス・スポーツルールの改訂、修正および定義を採用するための手順
- a. スペシャルオリンピックス内の誰でも、スポーツルールに対して、新しいルール、改訂、修正あるいは削除に関する提案を SOI スポーツ部門を通してスポーツルール諮問委員会へ提出してもよい。
 - b. プログラムは、スポーツルールに関するいかなる変更についても通知を受けるものとする。
 - c. スポーツルールに関するすべての新しいルール、改訂、修正あるいは削除については、SOI の理事会によって採択された翌年度の 1 月 1 日より有効になるものとする。変更の要約は、www.specialolympics.org (英語)に提示される。
4. 補足 A.4 - スペシャルオリンピックス・スポーツルールに対する改訂・修正依頼用公式フォーム

公式ルール変更提案記入フォーム

競技名: _____
郵送先: Sports Rules Advisory Committee(SRAC)
c/o Sports Department
Special Olympics Inc.
1133 19th Street, NW
Washington, DC 20036
USA

上記もしくは、e-mail to sportsrules@specialolympics.org

閲覧しているルールのバージョン(右下の日付参照) : _____

ルール出典箇所: (例:サイクリング - セクション E 競技ルール 1.b)

変更箇所のページ : _____

記載されているルール:

推 薦(下記にチェック)
ルールを削除
ルールを追加
下記のようにルールを変更

ルール変更提唱の理由

ルール変更は既に行われたか? それは何処で? 結果はどうだったか?

スペシャルオリンピックスを代表してルールの変更を提唱する

はい
いいえ

「はい」の場合、スペシャルオリンピックスの名前を本部組織からの推薦が必要です

(例:スポーツディレクター、ナショナルディレクター、理事など)

プログラム名:

提唱者の名前と役職

1.あなたはこの提唱がスペシャルオリンピックスのプログラムにどのような影響があるか、もしくは健康や安全について考慮された上で取り組みがなされているかを明確にしなければならない。特に自然に対する配慮は非常に重要である(例:スポーツを通じた新しい種目の追加の場合)。いくつかの例で、SOルールがスポーツ連盟のルールに取り入れられることで、意義のある競技の機会が追加され、新しいアスリートにスポーツをする機会を提供した。

2.フィールドテストに関しては、出来る限り詳細を知らせること。誰の責任によりテストが行われたか?その期間や何人のアスリートが関与したか?地区、もしくは国内レベルでテストが行われたか?その結果はどのように検証されたか?また、その提唱はどのようにサポートされて変更されたか?など。

補足 B - 国際スポーツ連盟

(英語正式名称のアルファベット順にて記載。)

[競技名]	[国際スポーツ連盟]
アルペンスキー	Federation Internationale de Skie (FIS) Blochstrasse 2 3653 OBERHOFEN AM THUNERSEE SWITZERLAND T: +41 33 / 2 44 61 61 F: +41 33 / 2 44 61 71 Internet: www.fis-ski.com
水泳競技	Fédération Internationale de Natation Amateur (FINA) Avenue de l' Avant-Poste 4 1005 LAUSANNE SWITZERLAND T: +41 21 / 310 47 10 F: +41 21 / 312 66 10 Internet: www.fina.org
陸上競技	International Amateur Athletic Federation (IAAF) 17, rue Princesse Florestine B.P. 359 98007 MONACO CEDEX MONACO T: +377 / 93 10 88 88 F: +377 / 93 15 95 15 Internet: www.iaaf.org
バドミントン	Badminton World Federation (BWF) Stadium Badminton Kuala Lumpur Batu 31/2 – Jalan Cheras MY-56000 KUALA LUMPUR Malaysia T: +60 3 / 92 83 71 55 F: +60 3 / 92 84 71 55 Internet: www.internationalbadminton.org
バスケットボール	Federation Internationale de Basketball (FIBA) 8 Chemin de Blandonnet 1214 VERNIER / GENEVE SWITZERLAND T: +41 22 / 545 00 00 F: +41 22 / 545 00 99 Internet: www.fiba.com
ボッチャ	Special Olympics, Inc. (SOI)

	1133 19th Street, NW, Washington, DC 20036 USA T: +1 202 628-3630 F: +1 202 824-0200 Internet: www.specialolympics.org
ボウリング	Fédération Internationale des Quilleurs (FIQ) Green Valley Country Club, Valle Verde I E. Rodriguez Jr. Ave, Brgy. Ugong 1604 PASIG CITY, MANILA Philippines T: +63 2 / 671 2436 F: +63 2 / 671 7031 Internet: www.fiq.org
クロスカントリースキー	Federation Internationale de Skie (FIS) Blochstrasse 2 3653 OBERHOFEN AM THUNERSEE SWITZERLAND T: +41 33 / 2 44 61 61 F: +41 33 / 2 44 61 71 Internet: www.fis-ski.com
クリケット	International Cricket Council (ICC) Al Thuraya Tower 1 Dubai Media City - PO Box 500070 DUBAI United Arab Emirates T: +971 4 / 3688088 F: +971 4 / 3688080 Internet: www.icc-cricket.com
サイクリング	Union Cycliste Internationale (UCI) CH-1860 AIGLE SWITZERLAND T: +41 24 / 468 58 11 F: +41 24 / 468 58 12 Internet: www.uci.ch
馬術	Federation Equestre Internationale (FEI) Avenue Mon-Repos 24 Case Postale 157 1000 LAUSANNE 5 SWITZERLAND T: +41 21 / 310 47 47

F: +41 21 / 310 47 60
Internet: www.horsesport.org

フィギュアスケート

International Skating Union (ISU)
Chemin de Primerose 2
1007 LAUSANNE
SWITZERLAND
T: +41 21 / 612 66 66
F: +41 21 / 612 66 77
Internet: www.isu.org

フロアホッケー

Special Olympics, Inc. (SOI)
1133 19th Street, NW,
Washington, DC 20036 USA
T: +1 202 628-3630
F: +1 202 824-0200
Internet: www.specialolympics.org

フットボール(サッカー)

Federation Internationale de Football Association (FIFA)
Case Postale 85
8030 ZURICH
SWITZERLAND
T: +41 43 / 222 7777
F: +41 43 / 222 7878
Internet: www.fifa.org

ゴルフ

Royal Ancient Golf Club of St. Andrew's (R&A)
St. Andrews
Fife
United Kingdom KY16 9JD
T: +44-33-47-2112
F: +44-33-47-7580
Internet: www.randa.org

体操競技

Federation Internationale de Gymnastique (FIG)
Rue des Oeuches 10
Case postal 359
2740 MOUTIER 1
SWITZERLAND
T: +41 32 / 494 64 10
F: +41 32 / 494 64 19
Internet: www.fig-gymnastics.org

柔道	International Judo Federation (IJF) 33rd Fl. Doosan Tower 18-12 Ulchi-Ro, 1KA, Chung-Ku 100 – 730 SEOUL KOREA T: +82 2 / 3398 1017-9 F: +82 2 / 3398 1020 Internet: www.ijf.org
カヤック	International Canoe Federation (ICF) C/ Anracita 7, 4th floor 28045 MADRID SPAIN T: +34-91 506 11 50 F: +34-91 506 11 55 Internet: www.canoeicf.com
ネットボール	International Federation of Netball Associations (IFNA) Belle Vue Leisure Centre Kirkmanshulme Lane M12 4TF Longsight, MANCHESTER UK T: +44 161 / 953 2459 F: +44 161 / 953 2492 Internet: www.netball.org
パワーリフティング	International Powerlifting Federation (IPF) Lerchenauer Str. 124a 80809 80809 MUNICH GERMANY T: +49 89/ 351 3916 F: +49 89/ 357 32243 Internet: www.powerlifting-ipf.com
ローラースケート	Federation Internationale de Roller Skating (FIRS) c/o FIHP Viale Tiziano 74 00196 ROME ITALY T: +39 06 / 3685 8543 F: +39 06 / 3685 8211 Internet: www.rollersports.org
セーリング(ヨット)	International Sailing Federation (ISAF) Ariadne House Town Quay SO14 2AQ SOUTHAMPTON, Hants.

UK
T: +44 2380 / 635 111
F: +44 2380 / 635 789
Internet: www.sailing.org

スノーボード Federation Internationale de Skie (FIS)
Blochstrasse 2
3653 OBERHOFEN AM THUNERSEE
SWITZERLAND
T: +41 33 / 2 44 61 61
F: +41 33 / 2 44 61 71
Internet: www.fis-ski.com

スノーシューイング Special Olympics Inc. (SOI)
1133 19th St. NW
Washington, DC 20036 USA
T: +1 202 628-3630
F: +1 202 824-0200
Internet: www.specialolympics.org

ソフトボール International Softball Federation (ISF)
1900 S. Park Road
33563 PLANT CITY (FL)
USA
T: +1 813 / 864 0100
F: +1 813 / 864 0105
Internet: www.internationalsoftball.com

ショートトラックスピードスケート International Skating Union (ISU)
Chemin de Primerose 2
1007 LAUSANNE
SWITZERLAND
T: +41 21 / 612 66 66
F: +41 21 / 612 66 77
Internet: www.isu.org

卓球 International Table Tennis Federation (ITTF)
Chemin de la Roche 11
1020 RENENS
SWITZERLAND
T: +41 21 / 340 70 90
F: +41 21 / 340 70 99
Internet: www.ittf.com

ハンドボール

Federation Internationale de Handball (IHF)
Case Postale 312
4020 Bale, Switzerland
T: +41 61 272-1300
F: +41 61 272-1344
Internet: www.ihf.info/

テニス

International Tennis Federation (ITF)
Bank Lane
Roehampton
SW15 5XZ LONDON
UK
T: +44 20 / 88 78 64 64
F: +44 20 / 88 78 77 99
Internet: www.itftennis.com

バレーボール

Federation Internationale de Volleyball (FIVB)
12 avenue de la Gare
1001 LAUSANNE
SWITZERLAND
T: +41 21 / 345 35 35
F: +41 21 / 345 35 45
Internet: www.fivb.org

補足 C - 参加資格

ゼネラルルールのセクション 6.01 を参照のこと。

補足 D - 宣誓と行動規範

アスリート宣誓

「私に勝利を与えたまえ。もしかなわぬなら挑戦することを称えさせたまえ。」（直訳文）
「わたくしたちは精一杯力をだして勝利を目指します。たとえ勝てなくても、がんばる勇気をあたえてください。」（SO 日本アスリート訳 / SO 日本使用）

コーチ宣誓

「全てのコーチの名のもと、スポーツマンシップの精神に則り、私たちは役割に徹し、他を尊重し、そして有意義な体験を皆様に約束します。私たちは全てのアスリートに対して、安全な環境で質の高いスポーツとトレーニングの機会を提供することを誓います。」

審判宣誓

「全てのジャッジとオフィシャルの名のもと、スポーツマンシップの精神に則り、私たちはスペシャルオリンピックスのゲームにおいて定められているルールを尊重し、また順守し、完全なる公平性をもって審判を務めることを誓います。」

スペシャルオリンピックスのアスリート行動規範

スペシャルオリンピックスは、スポーツの最高の理想に向けて尽力し、全てのアスリートにスポーツとスペシャルオリンピックスに対して敬意を払うことを期待します。全てのスペシャルオリンピックスのアスリートとユニファイドパートナーは、次の規範に同意します。

スポーツマンシップ

私は忠実にスポーツマンシップを順守します。
私は、自分自身や私のコーチ、チーム、そしてスペシャルオリンピックスに尊敬の念をもたらず行動をとります。
私は乱暴な言葉を使用しません。
私は他人をののしったり、侮辱したりしません。
私は他のアスリートやコーチ、ボランティアまたはスタッフと喧嘩をしません。

トレーニングと競技会

私は定期的に練習します。
私は自分が参加しているスポーツのルールを学び、そしてそのルールに従います。

私はコーチや審判の話聞き、理解できないときには質問します。
私はトレーニング、ディビジョニング、そして競技会において常に全力を尽くします。
私はより楽な決勝ディビジョンのグループに入るために、予選で力を抜くことはしません。

自分の行動の責任

私は他人に不適切な、あるいは迷惑な、身体的、口語的、または性的な誘いかけを行いません。
私は禁煙エリアにて喫煙しません。
私はスペシャルオリンピックスのイベントで、飲酒したり、違法薬物を使用したりしません。
私は自分のパフォーマンスを伸ばす目的のために薬を飲んだりしません。
私は全ての法律とスペシャルオリンピックスのルール、IF、及びNGBのルールに従います。
私は自分がこれらの行動規範に従わなかった場合、参加が認められなくなることも含めて、私の所属プログラム、あるいは世界大会の大会組織委員会から出される一連の判断結果に従わなければならないことを理解しています。

スペシャルオリンピックスのコーチ行動規範

スペシャルオリンピックスは、スポーツの最高の理想に向けて尽力し、全てのコーチにスポーツとスペシャルオリンピックスに対して敬意を払うことを期待します。
スペシャルオリンピックスの全てのコーチは次の規範を順守することに同意します。

他人に対する敬意

私はスペシャルオリンピックスのアスリート、コーチ、その他のボランティア、友人、そして観客の権利、尊厳、及び価値を尊重します。
私は性別、人種、宗教、能力に関わらず、全ての人を公平に扱います。
私は自分がコーチをしているアスリートの良い手本となります。

有意義な体験の保証

私はコーチをしている各アスリートに、スペシャルオリンピックスで過ごす時間が有意義なものとなることを保証します。
私は各アスリートの才能、発達段階、そしてゴールを尊重します。
私は各アスリートが、アスリートの可能性に挑戦でき、かつアスリートの能力レベルに適した種目に参加できるよう保障します。
私はアスリートたちと公平にかつ思いやりを持って正直に接し、アスリートたちと話す際は簡単で明快な言葉を用います。
私はアスリートがいかなる種目にエントリーする際も、正確なスコアを提供することを保障します。
私はスペシャルオリンピックス公式スポーツルールに準じて、各アスリートが予選及び決勝戦で最善を尽くすよう導きます。

役割に徹すること、ならびに自分の行動の責任

私は自分の言葉遣い、マナー、時間の正確性、準備、および表現について高い水準をもって示します。

私はスポーツに関わっている全ての人(アスリート、コーチ、対戦相手、審判、運営委員、ファミリー、観客、メディアなど)に対して統制、敬意、威厳、そして専門性を示します。

私はアスリートが同じような資質を示すことができるよう促します。

私は練習または競技会の際にスペシャルオリンピックスを代表している時は、飲酒したり、喫煙したり、また違法薬物を使用したりしません。

私はアスリートやその他の人々への暴言、暴行、および感情的虐待を含むあらゆる個人攻撃を控えます。

私は自分がサポートしているアスリートに対して他から向けられた、いかなる形の虐待についても注意を怠りません。

アスリートへの質の高い対応

私は自分の活動評価や継続中のコーチ研修を通じて、継続的な改善を図ります。

私は自分がコーチをしているスポーツのルールやスキルに関する知識を熟知します。

私は計画性のある練習プログラムを提供します。

私は自分がコーチをしている各アスリートの医療記録、練習記録、および競技記録の写しを取っておきます。

私は自分がコーチをしているスポーツについて、スペシャルオリンピックスのルール、IF、及びNGBのルールに従います。

アスリートの健康および安全

私は使用する備品や施設が安全であることを確認します。

私は使用する備品やルール、練習や環境がアスリートの年齢や能力に適していることを確認します。

私は各アスリートの医療記録用紙を確認し、その用紙に記載されているアスリートが参加するにあたってのいかなる制限事項にも注意します。

私は必要に応じて医師の診察を受けることをアスリートたちに促します。

私は病気や怪我をしたアスリートたちに対しても、他のアスリートたちと同様の関心およびサポートを持続させます。

私は適切な場合にのみ練習や競技会へのさらなる参加を認めます。

私はこれらの行動規範に違反した場合、スペシャルオリンピックスでのコーチングが禁止されることまでも含め、一連の判断結果に従わなければならないことを理解しています。

補足 E - スポーツトレーニングならびに競技会の一般規定

ゼネラルルールのセクション 7.03.(b)を参照のこと。

補足 F - 環軸椎不安定(亜脱臼)性のダウン症アスリートの参加

この項目はゼネラルルールのセクション 6.02.(g)より転載している。

スペシャルオリンピックスは脊柱に潜在的な危険をもたらす可能性のある特定の活動について、ダウン症のアスリートの参加を一時的に制限する場合がある。この制限は、第一脊椎(C1)が不安定でないことがX線検査で証明された場合、解除される。

1. 各国認定プログラムは、全てのダウン症アスリートについて、大部分のスポーツトレーニングや競技会に参加し続けることを認めてよい。ただし、ダウン症のアスリートは、頸部や上部脊椎の過度の伸展、極端な屈曲、またはそれらへの直接的な圧迫が生じる競技のスポーツトレーニングや競技会に参加することはできない。ただし、第一脊椎(C1)が不安定でないことがX線検査で証明された場合や、次項2の条件を満たした場合には、これらの競技への参加が認められる。参加するにあたって許可を必要とする競技種目には以下のものがある。
 - a. バタフライや個人メドレー種目、水泳の飛び込みスタート
 - b. 飛び込み
 - c. 5種競技
 - d. 高跳び
 - e. 馬術競技
 - f. 新体操
 - g. サッカー(チーム種目)
 - h. スノーボード
 - i. 柔道
 - j. アルペンスキー
 - k. その他頭部と頸部に負担のかかる準備体操

2. 環軸推不安定性と診断されたいかなるアスリートも上記の活動に参加してはならない。ただし、成人アスリートまたは保護者(アスリートが未成年の場合)の署名がされたリスク承諾書と一緒に、スペシャルオリンピックス所定の用紙に2人の医師によって書かれた証明をアスリートが提出した場合のみ、参加は認められる。

補足 G - アスリートの登録に必要な一般要件

ゼネラルルールのセクション 6.02 を参照のこと。